

2025年度 認定 NPO 法人ブリッジフォースマイル 事業方針

1、基本方針

2025 キーワード <予防的支援の再強化> <支援の可視化>

「社会的養護自立支援拠点事業」開始から1年経ち、新たに設けたLINE相談から、これまで福祉に繋がらなかった若者や、支援が途切れていた退所者からの相談が入ってくるようになりました。30歳を過ぎてなお、虐待のトラウマや生活困窮に苦しむ若者に触れる

度、もっと早くに適切な治療や十分な支援をつなげる必要性を痛感。改めて、予防的支援の重要性を認識し、独自予算でも予防的支援を行います。課題や支援結果を集計分析して可視化し、社会への発信や政策提言を行っていきます。

2、トピックス

■措置中児童へのアプローチとキャリア支援

巣立ち前にどれだけ将来への意欲を高め、準備ができたかで、その後の進路やキャリアが大きく異なります。また、措置中からB4Sと接点をもつことで、退所後のプログラムにもつながりやすくなり、予防的にかかわることができます。外に出かけることに消極的な子どもたちに、B4Sが施設を訪問する機会を増やし、特にキャリアへの意識を高めるセミナーや仕事体験に参加するよう働きかけを強化していきます。

■家計やりくりサポートプログラム

巣立ち後の若者にとって、金銭管理、家計のやりくりは常に重要度の高い課題です。そこで昨年から試験的に家計やりくりサポートプログラムを開始。若者が、家計簿の記録と月1回支援スタッフの振り返り面談をすると、B4Sから応援金をプレゼントする仕組みです。

定期継続的に伴走者と一緒に家計を見つめなおすことで、面倒な金銭管理への意識や行動も変わっていくことが確認できました。今年度は協賛企業のご支援や助成金で予算を確保し本格的な運用を開始します。

■拠点事業の継続に向けて

2012年の横浜市からの事業受託以降、行政受託での事業収入が団体の財政基盤を支えています。一方で失注した場合の資金難、人員体制弱体化が支援継続に大きな影響を与えます。今後もより多くの若者に、より効果的な支援を行うためには、各自治体との協働が不可欠です。自治体のニーズや子どもや若者の現

状にあわせ、柔軟できめ細やかな取り組みを行います。

■支援の可視化と政策提言

措置解除後のアフターケアが行政により本格化する中、支援の実績、成果をどのように測るかが問われています。支援回数や支援人数と言った数字だけでは実態をつかみづらく、支援対象者の課題、支援内容と稼働時間等の実施コスト、効果を可視化し、よりよい支援の在り方を提言していきます。

■事業評価

社会的インパクト評価の仕組みを導入して、4年目に入りました。成果を以ってプログラム毎の改善を図る組織文化が定着しつつあります。今年はこの成果評価をさらに進め、全24のプロジェクトを各担当からプレゼンし、「存在価値」と「社会的インパクト」の二軸で事業を評価する「事業レビュー」を行います。さらに事業を質量ともに高めていくことを目指します。

■ファンドレイジング

理想の支援を目指し、行政事業の枠には入らない支援や新しい支援を行っています。それらの支援には、助成金や寄付金が欠かせません。個人からのマンスリー寄付、企業からの寄付、遺贈寄付を増やすための施策を実施するとともに、巣立ちの生活必需品を購入するためのクラウドファンディングなどを実施し、安定的な運営のための資金確保を目指します。

3、2025 年度予算

【収入】

勘定科目	合計
正会費収入	106,000
その他会費収入	1,149,000
寄付金収入	77,400,000
助成金収入	9,485,000
事業収入	186,955,000
補助金収入	46,121,000
イベント収入	20,000
指定正味財産からの振替	8,103,000
雑収入	661,000
総計	330,000,000

【支出】

勘定科目	合計
給与手当	169,365,000
役員報酬	5,400,000
法定福利費	24,783,000
福利厚生費	300,000
外注費	38,510,000
事業支出	36,148,000
奨学金	1,960,000
旅費交通費	11,712,000
会議費	2,010,000
印刷経費	667,000
広告宣伝費	484,600
謝金	58,000
諸会費	27,500
水道光熱費	1,832,100
消耗品費	1,504,800
イベント飲食費	2,227,000
地代家賃	19,849,000
賃借料	615,000
通信費	4,104,000
保険料	310,000
修繕費	214,500
システム関連費	3,038,000
租税公課	1,959,500
支払手数料	389,000
宿泊・トレーニング	360,000
荷造運賃	30,000
消耗品費・イベント飲食費	41,000
交通費	37,000
研修費	1,000,000
予備費	1,064,000
総計	330,000,000